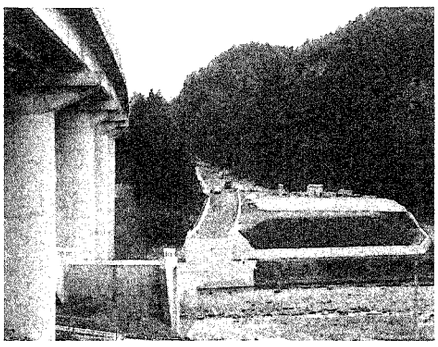
交通緩和と地域開発のための国道バイパスにつきましては、是非とも用地問題を解決し、第一期工事区間を完成させ、引き続き第二期工事として、玉川から田野倉間の早期着工を促進するとともに、中央自動車道都留インターのフルインター化と関連する県道高畑谷村停車場線の整備促進、さらに、市道古川渡東桂線への橋梁新設として、城山大橋に次ぐ柄杓流橋の架設に着手いたします。

また、新しいまちづくりのため青年層の市民二十名からなる新しいまちづくり推進協議会において、昨年から、まちづくりに必要な調査研究を行っていただいておりますが、新しい感覚のご提言をいただく中で、都市計画用途地域及び街路網の見直しを行い、都市計画街路・土地区画整理事業を取り入れた個性ある都市形成を図っていきます。

特に、課題となっております都留文科大学前駅舎の設置とその周辺整備につきましては、現在、地権者の方々で構成された、田原土地区画整理準備組合において、具体的に検討がなされております。

検討結果を尊重して、早期に地域の特色に沿った開発をするよう考えています。

また、将来の課題として、隣接市町と調整し、下水道整備計画の策定にも取り組んでいく所存です。



工事が進む城山大橋

## 生活環境の整備

本市は自然環境に恵まれていますが、特に水の豊かなことは、他市に自慢できるところです。

水道事業につきましては、清浄にして豊富な水を安定的に供給するため、二十一世紀に向かって、水需要を予測し、新規水資源地の選定など、地域の実情に即した水道の広域的整備を推進するため、現在「上水道整備基本計画」の策定を進めています。

本年には滝下浄水場に配水池を増設し、簡易水道につきましても、桂町地内に水道施設の増設を進めます。

また、水道事業の広域的観点から上水道と簡易水道の統合整備を推進し、経営基盤を確立する必要があります。

将来は、水道施設の集中監視、管理システムを導入し、維持・管理水準の向上に努力いたします。

環境保全衛生につきましても、河川の汚濁を防止し、清流とするため、昨年家中川流域生活排水対策連絡協議会が発足され、実践活動を通して成果も上がっています。

さらに、合併浄化槽設置整備事業を市の補助事業として実施し、「水の都」にふさわしい河川にしたいと思います。

## 住民福祉

高齢化社会を迎え、ねたきり・痴呆性・ひとりぐらしの老人が増えてきており、これらの人々の援護サービスは、ニーズに合った的確な対応が要求されています。今後の福祉は、高齢者や障害者など一般的に社会的弱者といわれる人々を特別な見方をすることなく、こうした人々が住みなれた家庭や地域社会の中で、他の人々とともに充実した生活を送ることができるような土壌づくりが肝要であります。

本市では、早くからひとりぐらしの老人介助組織を設け、関係者のご協力をいただいておりますが、これからはこの組織を一層拡充すべきであります。

さらに、ねたきり老人、障害者・母子・父子・老人世帯等の要援護者を地域ぐるみで支えていく〝ふれあい福祉システム〟づくりを推進するとともに、老人保健施設を有効活用し、デイケア、ショートステイ等も実施していきます。また、福祉のまちづくり推進事業も十年継続し、着実な成果をあげていますので、一層充実した事業として推進していきます。

ねたきり老人の介護

## 教育文化の向上

教育施設の整備充実につきましては、小・中学校全校舎の不燃化建築も完了しましたので、都留第二中学校の大規模改修をはじめ、諸施設の整備に努めます。

豊かな自然と地域の特性を生かした小学校から大学までの一貫した教育環境の整備を図るとともに、教育界の活性化のため「教育センター」を設置します。

また、一昨年から市内三中学校において、外国人英語指導助手による生きた英語指導を授業に含め、大きな成果をあげています。

本年は、姉妹都市のヘンダーソンビル市からも英語指導助手の派遣を計画していますので、一般市民を対象にした「英会話初級教室」も多く開催し、市民の皆様にこれからの時代に対応できる豊かな国際性を身につけていただけるものと思います。

本市の歴史とともに歩んできました都留文科大学も、文教都市の核として、名実ともに全国にその名をとどろかせていますが、将来の大学運営を展望するとき、数年後に迫った大学就学年齢の減少、教職への枠の縮小などに対処するための改革が必要であり、緊急の課題として取り組んで行かなければなりません。

民間企業が必要とする人材の育成、若者をひきつける魅力ある大学づくりなど、大学関係者に大いに期待していますが、現在、学内において新学科準備室を設置し、検討を重ねています。

施設の充実につきましても、このほど完成した新研究講義棟につづくキャンパスづくりに力を注ぎ、さらに地域に根差した「市民の大学」として、個性豊かな特色ある大学を目指します。

社会教育につきましても、今日の多様化、高度化する中で、人々が生涯にわたる学習活動を推進す